

歩く道が育む地域の未来 —宮城オルレとグリーンインフラの可能性—

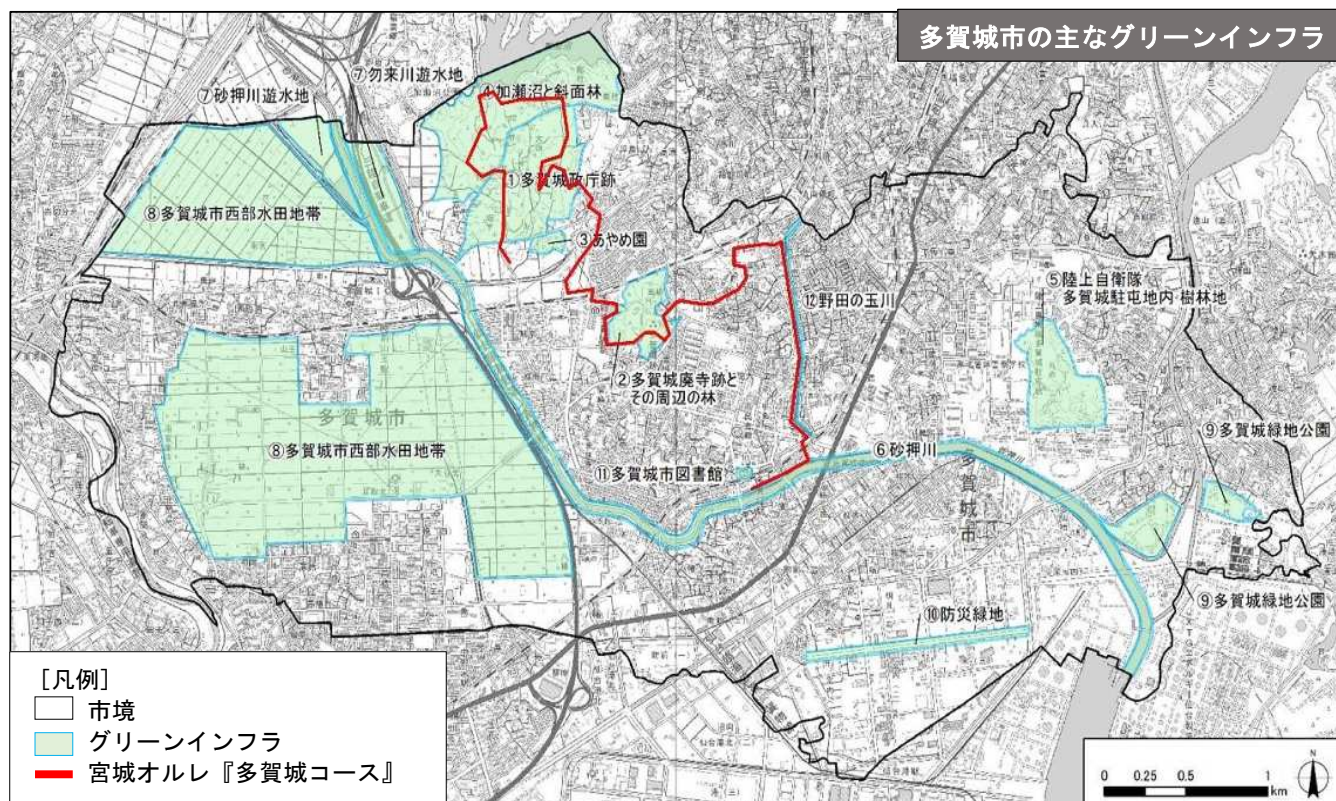
道路・港湾・堤防など、コンクリートによる人工構造物に代表される従来型の社会基盤の総称である「グレーインフラ」に対して、自然環境が有する多様な機能に改めて着目し、従来の愛でて楽しむ「みどり」だけでなく、機能面においても、地域の魅力、居住環境の向上や防災・減災等の多様な効果を得ようとするものを「グリーンインフラ（グリーンインフラストラクチャー）」と言います。自然には元来、雨の水を溜め、洪水を抑制し、水を綺麗にする機能や、空気の浄化、夏場の温度上昇抑制といった効果もあり、私たちが普段意識しないところで自然の恩恵を受けています。

本市にもグリーンインフラが多く存在していて、史跡と一体となって保存されてきた樹林地や、西部地域に広がる水田地帯、砂押川など様々な機能を持ったグリーンインフラがあります。

さらに令和7年度（2025年度）に開設された「宮城オルレ『多賀城コース』」は、こうした自然環境や歴史的景観を活かした“歩く道”として、地域資源の持続可能な活用を目指す新たな取り組みです。トレイルの整備は、定期的な点検や維持管理を通じて、災害時のアクセス性や安全性を高める防災・減災機能の強化にもつながります。また、自然観察や歴史学習の場としても活用されることで、地域住民や来訪者が自然と文化に触れ、多賀城ならではの環境への理解と愛着を深める機会を創出します。

宮城オルレの整備は、単なる観光振興にとどまらず、地域の自然と人をつなぎ直すグリーンインフラとしての役割を担い、持続可能なまちづくりに貢献するものです。

多賀城市の主なグリーンインフラ



資料：平成31年度多賀城市自然環境調査資料

※本図の宮城オルレ多賀城コースは概略を示したもので、
 実際のコースとは一部異なります。正確なルートは公式サイト等でご確認ください。